

## 国際化学肥料ニュース（2021年10月）

### 肥料業界の2021年10月動態

\* 10月第1週、尿素やその他の窒素肥料の価格が再び急上昇し、過去最大の週間上昇幅を記録した。東半球では、インド RCF 社の最新尿素国際入札は最低応札価格が CFR 東海岸 665.60 ドル/トン、CFR 西海岸 714 ドル/トンで、過去最高値を更新した。インドの需要を満たすのは中国だけであるが、国内石炭と天然ガスの価格が高く、政府は国内の肥料供給量を確保するため、輸出を阻害して、第4四半期の窒素肥料輸出が減少する見込みである。それに伴い、FOB マレーシアとインドネシアは9月上旬 420 ドル/トンであったが、先週は 160 ドルも上がり、580 ドル/トンを要求している。

西半球では、アメリカは8月末のハリケーンの影響で尿素生産量を削減して、国内在庫が低く、外国からの輸入量が増える見込みである。そのため、8月下旬に FOB Nola 420 ドル/トンは先週後半に 650 ドル/トンまで上昇した。ブラジルのバイヤーの大半が9月の市場から撤退したが、最近再び市場に戻り、尿素価格が8月下旬の CFR 約 460 ドル/トンから先週に 715 ドル/トンに上がった。それに伴い、エジプトの大粒尿素は8月末が FOB440 ドル/トン未満の価格で9月以降の出荷分 40 万トン以上を販売した結果、品不足で10月第1週の最新価格が FOB700 ドル/トンを超えた。

EU では、アンモニアと硝酸などの価格も驚異的な上昇が見られた。その理由は天然ガス価格の高騰による減産である。フランスでは、Yara 社は硝酸価格を9月上旬の 400 ドル/トンから10月初旬の 590 ドル/トンに引き上げ、ドイツでは硝酸カルシウム・アンモニウム価格が9月上旬の 313 ユーロ/トンから 468 ユーロ/トンに上昇した。

\* 10月1日に開札されたインド RCF 社の尿素国際入札は 12 社が応札、応札数量 194.4 万トン、その内訳は東海岸 83 万トン、西海岸 111.4 万トン。最低応札価格は Amber 社の CFR 東海岸 665.6 ドル/トン、Dreymoor 社の CFR 西海岸 714 ドル/トンである。東海岸応札の 83 万トンの内約 60 万トンが中国産尿素であるが、中国政府が11月1日から化学肥料の輸出に「法定検査」を強制的に行い、輸出できるか否かは不明である。

\* 10月5日、インド RCF 社は今回の尿素国際入札について、73.2 万トンを購入する予定があると発表した。その内訳は中東産尿素 9 万トン、インドネシア産尿素 4.5 万トン、中国産尿素 59.7 万トン。落札業者名と数量は下記の通りである。

Amber 社 6.5 万トン、Dreymoor 社 6.2 万トン、Midgulf 社 4.5 万トン、Koch 社 6.5 万トン、Transglobe 社 5 万トン、Swiss 社 9 万トン、Samsung 社 9.5 万トン、Ameropa 社 16 万トン。

- \* 9月から尿素の国際価格が急上昇して、2008年以来の高値を記録したが、まだ沈静化の兆候が見えない。下表は一部地域の8月末と10月8日現在の尿素価格の比較である。

地 域	8月末価格	10月8日価格	値上がり幅
中東湾岸小粒品 (FOB)	420 ドル/トン	700 ドル/トン	67%
エジプト大粒品 (FOB)	439 ドル/トン	830 ドル/トン	89%
アメリカ小粒品 (CFR)	457 ドル/トン	766 ドル/トン	68%
ブラジル大粒品 (CFR)	470 ドル/トン	792 ドル/トン	69%

- \* 10月12日中国税関総署は「商品検査を実施する輸入輸出商品目録の調整に関する告示」を発表した。その目的は中国産化学肥料の輸出をコントロールしようとするところである。当該制度は11月1日実施する予定であったが、インドの尿素国際入札に中国産尿素60万トン以上を受注したため、前倒して、10月15日から実施されることとなります。これにより、中国産化学肥料の輸出に大きな支障が出ると予測される。

- \* 消息筋によれば、中国とインドは加里肥料大手との間にそれぞれ2021年度塩化加里輸入基本契約の交渉を進んでいる。インド側はCFR価格が540ドル/トンで今年末までに塩化加里輸入基本契約を締結する希望である。中国側はCFR価格を400ドル台後半/トンを希望するが、加里メーカー側は550ドル台/トンで応酬し、交渉が難航している模様。

- \* 塩化加里の価格上昇が止まらない。東南アジアでは9月塩化加里のCFR平均価格が528ドル/トンであったが、来年3月のオプションではCFR平均価格が616ドル/トンになり、アメリカはカナダのMosaic社とNutrien社の加里供給が緊迫して、2022年3月の価格が707ドル/トンを予告している。ブラジルの粒状塩化加里はすでにCFR800ドル/トンまで近づき、史上最高値を更新した。

- \* イスラエルのICL社はデンマークのHaldor Topsoe社と硝酸加里の長期供給契約を結び、商取引関係を拡大する意向を発表している。硝酸加里は、水溶性窒素と加里を有し、養液栽培など高付加価値の作物栽培に使用されている。ICL社は、Haldor Topsoe社から硝酸加里の調達を拡大し、製品に統合して、2022年第1四半期に製品のマーケティングを開始する予定である。

- \* 中国税関の速報によれば、2021年9月中国の化学肥料輸出量333万トン、その内訳は尿素109万トン、硫安78万トン、DAP55万トン、MAP31万トン。1～9月の化学肥料輸出量が31%増の2611万トン、その内訳は尿素402万トン、硫安710万トン、DAP530万トン、MAP345万トン。

一方、2021年9月中国の化学肥料輸入量65万トン、その内訳は塩化加里54万トン、NPK化成肥料8万トン。1～9月の化学肥料輸入量が12.5%減の713万トン、その内訳は塩化加里599万トン、NPK化成肥料96万トン。

- \* 10月17日、中国政府は国内塩化加里の価格高騰を抑えるため、国家備蓄の塩化加里が入札により一部放出されることを発表した。入札日は10月20日、1社あたりの最大入札量が1万トン、最低応札価格3000人民元/トン（約467ドル/トン）である。今回の入札は中国綿花取引市場に委託する。中国塩化加里の国家備蓄量が150万トン、国内消費量の約10%に相当するが、今回入札の放出量が不明である。
- \* 天然ガス価格が高騰しているため、EUのアンモニアと窒素肥料の生産に悪影響を与えている。TTFの天然ガス取引価格では2021年1月に比べ、すでに250%も上がっている。オーストリアの**borealis group**はアンモニア生産量を大幅に削減して、オランダの**OCI社**も**Geleen工場**のアンモニア合成ラインを閉鎖した。アメリカの**CF Industries社**はイギリスにある2工場を一時閉鎖した。イギリス**IHSMarkit社**のレポートによれば、EU境内に停止したアンモニア合成ラインの生産能力が460万トンに達した。これに伴い、尿素と硝安など窒素肥料の生産量が大幅に減少し、価格が大幅に上昇した。
- \* 10月19日、中国商工連合会石油業商会硫安分会は硫安の国内安定供給を図るため、暫くの間に硫安の輸出量を減らすまたは輸出しないよう加盟各社に呼びかけている。中国は世界最大の硫安生産国と輸出国で、2020年の硫安生産量1200万トン、輸出量866万トン。2021年1～9月の硫安輸出量が昨年より20.6%増の710万トン。
- \* 10月第3週（11～17日）に尿素の国際相場が引き続き緩やかに上昇した。東半球では中国の化学肥料法定検査の影響で、インド向けの2～3船尿素の輸出が阻害され、韓国向けの一部小ロット尿素の輸出がキャンセルされた。中国尿素を取り扱う商社は11～12月の品物をほかの産地に探している模様。そのため、マレーシアとインドネシア産尿素の**FOB** 価格が1週間で50ドル/トン上昇した。中東ではインドがすぐ新の尿素国際入札を行うことを見込んで、価格が堅調さを保っている。オマーンの**OMIFCO社**が大粒尿素の競売では最高入札価格が**FOB760**ドル/トンであり、2008年第3四半期以来この地域で見られた最高水準である。

西半球では、EUでは天然ガス価格高騰により尿素価格が高騰し、買手の意欲を削っているが、尿素価格が高いままで推移している。一方ブラジルでは尿素の**CFR** 価格がすでに800ドル/トンを超えている。

世界の尿素供給量は依然として限られている。また、インドは2月までに最大350万トン尿素を輸入する必要があると予想されている。したがって、尿素は2月末までにさらなる上昇が見込まれている。

- \* 10月第4週（18～24日）の尿素国際相場が引き続き上昇して、留まる気配が見られず、史上最高記録を更新した。インド RCF 社は新しい尿素の国際入札を行い、尿素メーカーの直接入札しか認められず、12月10日までの納品を要求している。

東半球では、中国政府の「法定検査」措置により、尿素の輸出が実質に禁止される現状では、東南アジアと中東の尿素メーカーはすでに11月と12月の生産量が予約販売され、韓国も中国尿素の輸入が出来ず、東南アジア産尿素を高値で輸入することになった。中東では、サウジアラビアの Sabic 社は11月の出荷の大粒尿素を FOB850 ドル/トンで販売し、エジプトの大粒尿素は12月出荷分では FOB900 ドル/トンに達した。

西半球では、最近ヨーロッパ買手の動きが少ないが、尿素の CFR 価格は依然としてある程度の上昇を記録している。アメリカ Nola の尿素市場は今週 CFR788～799 ドル/トンに上昇し、CFR ブラジルの最新価格（CFR800 ドル/トン超）よりわずかに下回ってだけである。

- \* 10月26日、インド RCF 社が新しい尿素国際入札を行うことを発表した。輸入港はインド西海岸に限定され、購買数量未定、11月1日締め切り、12月10日前船積という条件である。これは今年8回目の尿素国際入札である。なお、今回の入札は応札資格が尿素メーカーに限られ、貿易商社を除外するという規定を初めて打ち出した。

- \* 10月15日から実施された中国化学肥料の輸出に対する「法定検査」により、中国国内尿素の出荷価格が急落した。10月18日から11月1日までの15日間に尿素の工場出荷価格が600人民元（約95ドル）/トンも下がった。その理由は三つある。一つ目は輸出が完全にシャットアウトされ、港に在庫している輸出用の尿素も国内市場に回流されている。二つ目は国内需要不足で、秋季の肥料使用がすでに終わり、来春の肥料使用がまだ早いので、高値の尿素を購入する買手が少ない。三つ目が原料石炭の価格の急落である。10月下旬、中国政府が石炭価格を厳しく統制し、10日間だけで石炭価格が50%以上も下落した。但し、原料石炭の不足と天然ガスの価格高騰で、尿素生産設備の稼働率が下がり、生産量が約20%も減少して、1日12～13万トンに落ち込んでいる。したがって、尿素価格がどこまで落ちるかが不明である。

一方、DAP と MAP は原料リン鉱石と硫黄の高値により、小幅の値下げに留まっている。

\* 消息筋によれば、輸出化学肥料に対する中国政府の「法定検査」が10月15日始まってからすでに2週間が過ぎたが、11月1日までに輸出に許可された案件が全くない。初めてのケースであるため、各地の税関がその実施細則と検査項目が全く把握せず、たらい回しの状態となっている。化学肥料メーカーと輸出商社がその対応に困って、一部の化学肥料輸出案件が取り消された事例も出ている。

\* 11月1日、インド RCF 社は尿素国際入札の応札結果を発表した。5社が応札しているが、OQ trading 社は失格し、有効応札者が4社、応札量46.8万トンで、すべて中東のメーカーである。中国の尿素輸出が実質に不可能になった現状では、尿素の国際相場の急騰を反映して、最低応札価格は FOB895 ドル/トンで、海運賃を加える CFR 価格が 900 ドル/トンを超える。有効応札4社の数量と価格は下記の通りである。

メーカー名	応札量	応札価格
Muntajat	4.5万トン	FOB 925 ドル/トン
Omifco	4.5万トン	FOB 910 ドル/トン
Gpic	4.5万トン	FOB 895 ドル/トン
Fertiglobe	18万トン	FOB 897 ドル/トン
	15万トン	CFR 935 ドル/トン

前回10月1日開札されたインド RCF 社の尿素国際入札は CFR 西海岸の最低価格が 714 ドル/トンであるが、今回は約 200 ドル/トンも高くなっている。

\* 10月末、エチオピア政府が80万トン尿素的国際入札を行ったが、反政府勢力との武力衝突が激化して、政局が不安定である上、尿素的国際相場急騰もあり、応札者が北アフリカの1社だけで、応札価格が FOB1015 ドル/トンである。尿素的 FOB 価格が 1000 ドル/トンを超えたのは史上初である。

## 大手各社の営業業績

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

\* オーストラリアの Kalium Lakes 社は西オーストラリア州にある Beyondie 硫酸加里プロジェクトが試運転に成功し、最初の硫酸加里を生産したと発表した。

\* オーストラリアの Trigg Mining 社は西オーストラリア Lake Throssell 硫酸加里プロジェクトのスコoping調査を完了し、その調査結果は年間硫酸加里 24.5万トン、21年間継続生産できる資源量があると発表した。

- \* 中国の中農国際公司はラオスにある 75 万トン塩化加里増設工事が完了し、正式稼働が始まると発表した。この増設工事は 2020 年 4 月着工、2021 年 8 月完成、試運転に入った。既存の 25 万トン生産ラインと合わせて、中国資本が初めて海外に 100 万トン塩化加里生産拠点を所有する。

## その他

- \* アラブ首長国連邦の Fertiglobe 社はその株式をアブダビ証券取引所 (ADX) に上場すると発表した。Fertiglobe 社は 2019 年 9 月にオランダの OCI 社とアブダビ国営石油会社 (ADNOC) が合弁して設立された肥料会社で、OCI 社が 58%、ADNOC 社が 42% の株式を所有する。アンモニア、尿素を生産・販売して、年間生産能力尿素 500 万トン、中東最大の尿素メーカーと輸出商社である。

- \* 中国税関の速報によれば、2021 年 8 月中国の食糧輸入量が 21.4%増の 1538 万トン、その内訳はコメが 167.6%増の 36 万トン、トウモロコシが 221.2%増の 323 万トン、小麦が 1.1%増の 71 万トン、モロコシ (高粱) が 27%増の 81 万トン、大豆が 1.2%減の 949 万トン。

また、中国税関の貿易統計では 2021 年 1~8 月中国の食糧輸入量が 34.8%増の 1 億 1454 万トン、輸入量のうち大豆 6710 万トン、コメ 320 万トン、小麦 696 万トン、トウモロコシ 2140 万トン。ともに史上最高記録である。

この数年間中国が食糧を大量に輸入する背景は、農村の若者が都市部に出ていき、農業人口が減り、栽培面積が減少するうえ、国内主な農業地域に洪水と干ばつが多発して、食糧生産量が大幅に減少したことである。

- \* アメリカの AmmPower 社はミシガン州南東部のパイロット施設で初めて新型触媒による窒素と水素からアンモニアの合成生産に成功したと発表した。